# 令和２年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第４号
## （７月の発生予想）

令和２年　６月３０日

| 【作物名】<br>病害虫名 | 予報内容<br>発 生 量：平年比<br>発生程度：<br>発生時期：平年比 | 予報の根拠 |
|---|---|---|

【水稲】

| | | |
|---|---|---|
| 葉いもち | 量：並<br>時期：並 | ①　初発確認は 6/25 で平年並、発生量は平年並。(±)<br>②　BLASTAM によるいもち病感染好適条件は、梅雨入り後地域的に出現したが、広域に出現したのは 6 月 27 日で、例年に比べ出現時期が遅い。（±～－）<br>③　コシヒカリＢＬの作付けが多く、発病進展には抑制的に働く。（－）<br>④　向こう１か月の降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並と予想されている。（±） |
| 紋枯病 | 量：多い<br>時期：早い | ①　前年の発生量は平年比多く、越冬菌核量は平年比多いと推定される。（＋）<br>②　初発確認は 6/24 で平年より早く、発生量は平年比多い。（＋）<br>③　向こう１か月の平均気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |
| 稲こうじ病 | 感染量：並 | ①　前年の発生量は平年並で、伝染源量は平年並と推定される。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>多発生地及び前年に規格外が発生したほ場では、薬剤防除を実施する。 | |
| ニカメイチュウ | 量：並<br>程度：少発生<br>時期：並 | ①　６月下旬の被害株率は平年並。（±）<br>②　越冬世代の発蛾盛期は６月第１半旬頃で平年並、トラップ誘殺数は平年比多い地点もあるが全般に平年並。（±）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋） |
| 斑点米カメムシ類 | 量：多い<br>時期：並 | ①　６月下旬の畦畔すくい取り調査では、アカスジカスミカメの確認地点率は平年並だが、確認虫数は平年比多い。（確認虫数は過去 10 年で最も多い。）アカヒゲホソミドリカスミカメは確認地点率、虫数とも平年並。オオトゲシラホシカメムシの確認地点率は平年並、虫数は平年比やや少ない。（＋）<br>②　向こう１か月間の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>詳しい防除対策については、６月 30 日付け注意報第１号（カメムシ類による斑点米の多発生に注意）を参照のこと。 | |

| 【作物名】<br>病害虫名 | 予報内容<br>発 生 量：平年比<br>発生程度：<br>発生時期：平年比 | 予報の根拠 |
|---|---|---|

【水稲】（つづき）

| | | |
|---|---|---|
| セジロウンカ | 量：やや多<br>時期：早い | ①　６月 18 日に平年比 10 日早く初確認。（＋）<br>②　６月下旬の発生量は平年比やや多い。（＋）<br>③　梅雨明けまでは再飛来の可能性がある。（±） |
| ツマグロヨコバイ | 量：やや多<br>程度：少発生 | ①　６月下旬の株当最高寄生数は平年並。（±）<br>②　６月下旬の本田すくいとり虫数は平年比多い。（＋）<br>②　向こう１か月の平均気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| イネアオムシ<br>（フタオビコヤガ） | 量：並<br>程度：少発生 | ①　６月下旬の幼虫発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| コブノメイガ | 量：並～やや多 | ①　佐渡市のフェロモントラップでの初確認は６月 17 日で平年比 17 日早く、誘殺数は平年比多い。（＋）<br>②　梅雨明けまでは再飛来の可能性がある。（±） |
| コバネイナゴ | 量：やや多<br>程度：少発生 | ①　６月下旬の発生量はやや多い。（＋）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |

【大豆】

| | | |
|---|---|---|
| アブラムシ類<br>（褐斑粒） | 量：やや少ない<br>程度：少発生 | ①　６月下旬のジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は平年並。その他アブラムシ類の発生量は平年比少ない。（±～－）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |

【なし】

| | | |
|---|---|---|
| セイヨウナシ<br>褐色斑点病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病葉率１～５％） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　発病葉、発病果及び発病枝は二次伝染源となるので、見つけ次第剪除して土中深く埋める等適切に処分する。<br>②　梅雨期間の降雨は感染に好適であるため、散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。 | |
| ナシヒメシンクイ | 量：やや多い<br>程度：少発生<br>（被害果率１～２％） | ①　６月下旬現在、被害果は認められず発生量は平年並。（±）<br>②　フェロモントラップ誘殺数は平年比多い。（＋）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　被害果は見つけ次第摘除して土中深く埋める等、適切に処分する。<br>②　防除時期は誘殺盛期直後である。 | |
| ハマキムシ類 | 量：並<br>程度：少発生<br>（被害葉率１～15%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　フェロモントラップの誘殺数は平年並～平年比やや少ない。（±～－）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>第２世代幼虫の散布適期は、第１世代成虫誘殺ピークの 14 日後である。 | |
| アブラムシ類 | 量：やや多い<br>程度：中発生<br>（寄生葉率６～15%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| ハダニ類 | 量：やや多い<br>程度：少発生<br>（寄生葉率１～15%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、園内をよく観察し発生初期に防除を行う。<br>②ハダニ類は楽剤抵抗性がつき易いので、同一殺ダニ剤の使用は原則として年１回とする。 | |
| コナカイガラムシ類 | 量：並 | ①　６月下旬はコナカイガラムシ類の被害は認められず、発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　樹皮の隙間、窪み、枝の切り口等をよく観察し、卵のうや虫の寄生が認められた場合は、ブラシ等でこすり落とす。 | |
| 果樹カメムシ類 | 量：やや多い | ①　６月下旬現在、被害果は認められず、発生量は平年並。（±）<br>②　予察灯での誘殺数は平年比多い。（＋）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されて |

| | | |
|---|---|---|
| | | いる。（＋） |

【もも】

| | | |
|---|---|---|
| せん孔細菌病 | 量：並<br>程度：中発生<br>（発病葉率 11～30%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　収穫期が近づき薬剤防除が困難となることから、以下の耕種的防除を実施する。<br>・本病は風雨により発病が助長されるため、防風網の設置、補修等、防風対策を行う。<br>・新梢に発生する夏型枝病斑は、当年の重要な伝染源となるため見つけ次第発病枝ごと剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。<br>②　次作における伝染源量を減らすため収穫後の秋期防除を必ず実施する。 | |
| 灰星病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病果率１～５%） | ①　６月下旬は発病果は認められず、発生量は平年並。(±)<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　発病果は見つけ次第剪除し、土中深く埋める等適切に処分する。<br>②　重点防除時期は収穫 20 日前頃～収穫期である。 | |
| モモハモグリガ | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（被害葉率１～15%） | ①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　フェロモントラップへの誘殺数は平年比やや少ない。（－）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>第３世代幼虫の防除時期は７月上旬と推定される。 | |
| ナシヒメシンクイ | 量：やや多い | ①　６月下旬の新梢被害の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　フェロモントラップ誘殺数は平年比多い。（＋）<br>③　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋） |
| | 【防除上の留意事項】<br>被害新梢（心折れ）や被害果実は見つけ次第剪除して幼虫密度を減らす。 | |
| 果樹カメムシ類 | 量：やや多い<br>程度：少発生<br>（被害果率１～２%） | ①　予察灯での誘殺数は平年比多い～やや多い。(＋)<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |

【ぶどう】

| | | |
|---|---|---|
| 晩腐病 | 発生量：並<br>感染時期：やや早い～並 | ①　前年の発生量は平年比やや多く、越冬伝染源量も平年比やや多いと推察される。（＋）<br>②　６月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±)<br>③　胞子飛散時期は６月第５～第６半旬と推定され、平年比やや早い～並（４月１日起算、1400 日度）。<br>④　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】　重点防除時期は、６月中旬～７月中旬である。 | |
| べと病 | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（発病葉率１～10%） | ①　前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。（±）<br>②　６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年比やや少ない。（－）<br>③　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>①　発病後の防除では効果が低いので、予防散布を徹底する。<br>②　発病葉は二次伝染源となるため、見つけ次第剪除し土中深く埋める等適切に処分する。<br>③　散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。 | |
| 褐斑病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病葉率１～10%） | ①　前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推察される。（±）<br>②　６月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±)<br>③　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| ﾌﾀﾃﾝﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ | 量：並<br>程度：少発生<br>（被害葉率１～25%） | ①　前年の発生量は平年並で越冬成虫量も平年並と推察される。（±）<br>②　６月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±)<br>③　向こう１か月の気温はほぼ平年並と予想されている。（±） |

【かき】

| | | |
|---|---|---|
| 円星落葉病 | 感染量：やや多い<br>感染時期：早い | ①　前年の発生量は平年比多く、越冬伝染源量も平年比多いと推察される。（＋）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ | 量：並 | ①　６月下旬の被害果発生は未確認。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| ｶｷｸﾀﾞｱｻﾞﾐｳﾏ | 量：並 | ①　６月下旬の被害葉発生は未確認。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |
| 果樹カメムシ類 | 量：多い | ①　予察灯での誘殺数は平年比多い。（＋）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋） |

【すいか】

| | | |
|---|---|---|
| つる枯病 | 量：並 | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±） |

| | | |
|---|---|---|
| | 程度：少発生<br>（発病葉率１～25%） | ②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| 炭疽病 | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（発病果率１～25%） | ①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| アブラムシ類 | 量：並～やや多い<br>程度：少発生<br>（寄生葉率１～25%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |
| ハダニ類 | 量：並～やや多い<br>程度：少発生<br>（寄生葉率１～25%） | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |
| オオタバコガ | 量：並～やや多い<br>程度：少発生 | ①　６月下旬の発生量は平年比少ない。（－）<br>②　フェロモントラップ総誘殺数は下越地域で平年並、新潟、魚沼地域で平年並～多い。（＋～±）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |

【秋冬ねぎ】

| | | |
|---|---|---|
| べと病 | 量：やや多い<br>程度：少発生<br>（発病株率１～10%） | ①　６月下旬の発生量は平年比多い。（＋）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±～－） |
| さび病 | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（発病度１～５） | ①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±～－） |
| 黒斑病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病度１～20） | ①　６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| 軟腐病 | 量：並<br>程度：少発生<br>（発病株率１～５%） | ①　６月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| ネギハモグリバエ | 量：やや少ない<br>程度：少発生<br>（被害度 1～10） | ①　６月下旬の発生量は平年比少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |
| ネギアザミウマ | 量：並<br>程度：中発生<br>（被害度 11～20） | ①　６月下旬の発生量は平年比やや少ない。（－）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |
| | 【防除上の留意事項】<br>・発生状況に注意し、例年発生が多いほ場では、定期的に防除を行い、密度抑制に努める。 | |
| シロイチモジヨトウ | 量：多い<br>程度：少発生<br>（被害株率１～10%） | ①　フェロモントラップ誘殺数は平年比多い。（＋）<br>②　６月下旬の被害は未確認。（±）<br>③　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |

【ユリ（球根養成）】

| | | |
|---|---|---|
| 葉枯病 | 量：並 | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の降水量、日照時間はほぼ平年並と予想されている。（±） |
| アブラムシ類 | 量：並 | ①　６月下旬の発生量は平年並。（±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |

【その他】

| | | |
|---|---|---|
| 【アブラナ科野菜】<br>コナガ | 量：並～やや多い | ①　フェロモントラップ誘殺数は平年並～やや多い。（＋～±）<br>②　向こう１か月の気温は平年比高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（＋～±） |

～　防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください　～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注２：「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～　農薬は適正に使用しましょう　～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：６月１日～８月 31 日】

○ 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
○ 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
○ 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
○ 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
○ 水田で湛水して農薬を散布する場合は、７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電　話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/

【参考】北陸地方　１か月予報（６月２７日から７月２６日までの天候見通し）
（新潟地方気象台：令和２年６月２５日発表）

**＜予想される向こう１か月の天候＞**

向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう１か月の平均気温は、高い確率６０％です。

週別の気温は　、１週目は、高い確率７０％です。

２週目は、高い確率５０％です。

３～４週目は、高い確率５０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

| | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|---|---|---|---|
| 気　　温 | １０ | ３０ | ６０ |
| 降 水 量 | ３０ | ３０ | ４０ |
| 日照時間 | ４０ | ３０ | ３０ |

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

| | 低い | 平年並 | 高い |
|---|---|---|---|
| １週目（６月２７日～７月　３日） | １０ | ２０ | ７０ |
| ２週目（７月　４日～７月１０日） | ２０ | ３０ | ５０ |
| ３～４週目（７月１１日～７月２４日） | ２０ | ３０ | ５０ |